

AA日本ニューズレター



AA 日本ゼネラル・サービス・ミーティング・文書委員会
TEL03-3590-5377 ☎171 東京都豊島区池袋 2-23-3 橘ビル 9F

〒100-91
東京都中央郵便局
私書箱 916

No. 35

第 4 回

ゼネラル・サービス・ミーティングのお知らせ

— テーマ —

『サービスそれは良く情報を伝えられてグループの良心から始まる』

全国レベルでのサービスについて分かち合う目的で1998年11月ゼネラル・サービス・ミーティング(以下GSM)はスタートした。このミーティングのレギュラーメンバーは、7地域(北海道、東北、関東甲信越、中部・北陸、関西、中国・四国、九州)より選出された評議員とJSOオフィス幹事・職員で構成されている。

第2回より全体サービスの活動にとって、JSOと各地域のセントラル・オフィスとが相互の協力をより深めることが必要と判断し、JSOスタッフとセントラル・オフィス職員とのミーティングをプログラムに組み入れ、以後継続している。また、メンバーのオブザーバーとしての参加を歓迎し、毎回呼びかけを行っている。

今年は、9月12日～14日の3日間の日程で開催される。

テーマは『サービスそれは良く情報を伝えられたグループの良心から始まる』とし、サブテーマを、『決定権・参加権・アピール権』とした。

このテーマは『伝統2』に現される原理を最も効果的に行うための大切な概念である。また、方針、広報、文書、財務、専門家協力、ネットワークといった6つの分科会に分けて、それに関係する内容に焦点をあてて討議される。全体ミーティングでは、AA20周年記念集会やJSO支援及び活動などの全体サービスの問題やセントラルオフィスと地域サービスの協力といった地域レベルのことやグループサービスに直接関連のある問題などを話し合う。

短い休憩をはさむものの朝の9時から夜の10時まで熱心に討議される、ちょっとハードなミーティングである。

このようなお知らせをして良く耳にすることは、「サービス? 特にG・S・Mなどというような全体サービスなど自分の回復とは関係ないね」とか、

「全国サービスなどは一部の上の人達に任せておけばいいんだ」といった声である。まぎれもない私自身も初めのころにそう思っていた一人である。しかし、本当にそうだろうか? 少なくとも今の自分は全く反対の意見の持ち主である。

私はAAをまったく知らなかった。だが幸運にもAAを知ることができ、プログラムと一緒に歩むことができるたくさんの仲間と出会うことができた。この状況にたどり着いた道程の中では、回復しようとした私一人の『力』などほんのささいなものに過ぎない。『誰かが、どこかで助けを求めたら必ずそこにAAの(愛の)手があるようにしたい』と願う多くの人たちのメッセージが私の耳に届かなかったら今の私はいなかった。

もう一つの声は『自分たちのグループは何の問題もなくうまくいっているからいいんだ』という声である。はたしてそうだろうか? AAは経験の分かち合いである。北のグループでうまくいった経験を南のグループと分かち合えば、もっと広くAAの最終目的が達成される。また、問題が生じてトラブルが絶えない場合などは同じような問題を解決したグループが必ずあるはずである。このような経験の蒸留こそがAAの基礎である。だから、グループのビジネス・ミーティングで討議する事も、G・S・Mで討議する内容も同じ『まだ苦しんでいるアルコール中毒者にメッセージを運ぶための一番良い方法は何か』である。『だったらメンバー全員が集まって話し合えばいいじゃないか』といった声が聞こえてきそうである。

AAの『12の概念』に、私たちのグループは絶えず健全な判断ができる状態ばかりでない。そのため、伝統2に現される人達にそのサービスの責任を委託していくことでより効果的なメッセージを運ぶことができると書かれている。そのため、グループ

は代議員を選出し、その人たちがグループの良識を現わす人として行動し、地区や地域で委員会を開き、サービスについての『わかちあい』を行っている。

また、評議員を選出し、全体サービスとしての責任を委託していく。

G S Mの内容は地元に戻っての評議員のしっかりした報告をグループのメンバー一人一人が受け止め行動することで、より確実なサービス活動へと発展してい

く。輪番で奉仕を任された僕に委託していくAAのフェロシップは、報告する側と受ける側の一体で成り立つ。この相互の関係を大切に、今回のG・S・Mの報告も実りある報告となることを期待したい。

そして最後をお願いすることは、一人でも多くのひとたちが参加し有意義な『分かち合い』ができるよう望んでご案内する次第である。

G S M：事務局

私の地域の ラウンドアップ

北海道地域



全国の皆様いかがお過ごしでしょうか。いつもお世話になりありがとうございます。ここにラウンドアップのご案内をさせていただけることを感謝致します。特に今年は先人の仲間たちの述べ伝えによってこの北海道にAAが紹介されてから15年という大きな節目を迎えます。

私たちのラウンドアップも、88年帯広市幕別温泉、89年支笏湖湖畔、90年、91年続けて富良野市山麓と行われて来ました。今年で5回目ですがいろいろな形でやっております。運営としては一応北海道インターグループが主催という形を取りますが、AA北海道インターグループが実行委員長を指名させて頂き、そして仲間たちに了解を得て計画から準備、そして実行にと進んで来ますが、数多くの仲間の手を必要としていますので、その都度、グループ、そしてメンバーに協力を仰ぎながら当日を迎えることとなります。

“自然に生きよう”、大いに遊ぼう、そして仲間との出会いを通して一人一人の回復と成長を望んでいこう……。

広い北海道のことですから、各地の仲間のところで行いたいのは山々ですが、どうしても仲間の多いところが中心にならざるを得ないのが現状です。又、北海道は観光立県といっていますが公的施設の不足というが、無いというが、やむを得ず民間の宿泊施設を使わざるを得ないのが実情ということで、臨機応変に対処しています。宣伝広報としての対応は、ラウンドアップ仲間たちの口コミと、北海道の仲間の手作りである

“ダイヤモンド・ダスト”を通して関係者その他の方々に参加を呼びかけています。

今年もまた、92北海道ラウンドアップが涼風爽やかな初秋に行われます。9月4日(金)十勝川・国際ホテル筒井、5日(土)十勝川・ホリデーインホテル十勝川と宿泊施設が変わりますが、十勝平野を舞台に行われます。お手元の案内状の通りのプログラムを進めてまいります。私達(AA)の目的とする、まだ苦しんでいる仲間AAのメッセージを伝え述べるとは勿論のこと、苦しめて来た家族や、社会(職場)における人々、病院におけるお医者さん、看護婦さん、ケースワーカー、そして多大の援助を頂きました福祉関係の皆様、私達が飲まないで生きるAAのプログラムを改めて知って頂きたいということで毎年行っております。そして忘れてならないのはソプラエティを謳歌しているそれぞれの仲間たちが年に一度集まり、フェロシップを楽しみ、どのようにして今の状態になったかの確認をしつつ、楽しむことを願っているわけです。

どうか全国のメンバーの皆様方、紅葉には早いですがけれども大地に根付いている北海道のAAの姿を見て頂き、かつ大きな励ましとフェロシップのなかでの分かち合いをいただければ幸いです。

東北地域



各地でそれぞれのイベントが開かれ仲間の集う機会が多くなってきました。中でもラウンドアップはより

多くのメンバー、家族、関係者の方とのふれあいの場として定着してきたように思われます。

東北地域の全体としての催しとしては今回で4回目になります。以前は地区やグループ単位で開催していたものをもっと広く地域の一体性の中で開催しようと話し合われた結果なのですが、実行段階になるとまだ問題が多く出てきます。

地域の広さ、交通網の不便さから地区内やグループ間の距離が倍にも感じられ度々集合して実務を行うことができませんので結局はグループの担当になってしまいます。今回は双葉グループで担当させていただきましたがTCO内にも委員会をおくことができ、チケット印刷、横断幕作成、電話での対応など分担ができて助かりました。チケットの受付住所が個人名になってしまい、アノニマスの点から問題が残ったかも知れません。

私書箱の提案もありましたが、簡単には開設できずに間に合いませんでした。振替用紙を実際に確認してからのチケット発送の形を取りましたので、オフィス内に受け付け住所をおかずに個人宅になってしまいました。これも今後の課題として検討して行きたいこと

です。

当グループでは毎年の夏の集いの延長のつもりで気楽に引き受けましたが、フタを開けてみれば大変なことばかり、少ないメンバー数で青息吐息でした。開催間際にホテルの部屋数を制限され、当日のプログラム変更を余儀なくされて、十分なミーティング時間をもてなかったことをご迷惑をおかけしました。しかし、乏しい経験の中からメンバーが一体となって実行できたこと、それに多忙な時間にもかかわらずご参加いただいた医療、行政関係の方々、遠く北海道、青森からの仲間、大阪のアラノンのメンバーの方にお会いできたことに感謝致します。

終わってみれば、反省点はかなりありますが、グループとしては貴重な分かち合いを頂けたものと思っています。今後の希望としては、地域内を各地持ち回りで開催したいと思っています。一朝一夕にはならないことですが、地域の一体性のために実現したいことです。幸い今年山形にもグループが誕生しミーティングが開かれています。これからも仲間たちにメッセージを届けることができるよう地域全体で進んで行きたいと思ひます。



関東甲信越地域

AAが日本で始まったのは1975年。その当時から在日アメリカ人の催し物に参加するというかたちで日本のメンバーたちもラウンドアップを経験していましたが、今のようなかたちで行われるようになったのは、日本のAAが10周年を迎えた85年の翌年、86年4月の埼玉県越生のラウンドアップからでした。そのときのテーマは「わたしと一緒に始めましょう」。

越生のラウンドアップの3カ月後には、JSOが今の池袋に移転しています。ニューズレターが創刊されたのは、その年の10月のことでした。自分たちの手でラウンドアップを行うようになったというのも、日本のAAの成長を示す一つの出来事だったと言えるでしょう。また地区割り後に行われた初めての大きな催し物だったということで、ラウンドアップを通して地域・地区の役割がメンバーに身近に感じられるようになり、その後のサービス体系が作られていくきっかけともなりました。

それから毎年、春と秋の2回、地域としてラウンド

アップが開かれるということが定着し、第5回までは越生で開かれていましたが、年2回のうち1回は、主体的に引き受けられることができる地区で開催してはという呼びかけがされ、これに応えるかたちで88年秋は神奈川、89年と91年の秋は長野で行われました。それぞれの地区が主体となって実行委員会を作り地域がバックアップするというかたちで運営されたわけですが、経験のない仲間たちが力を合わせて一つの大きな催し物を作り上げて行くことは地区としてのまとまりを作る大きな力となりました。今年の秋には群馬の仲間の手でラウンドアップが開催されます。

また、今年の春の読売ランドでのラウンドアップでは、バイリンガル・ラウンドアップと銘打って英語グループの人達と合同で行うという試みもされました。

私たちの地域ではこれからのラウンドアップの企画や実行委員会のバックアップをするために新しく地域委員会の中にラウンドアップ委員会を作りました。少数の個人の負担ではなく、地域として地区として役割を担うのだという本来の方向を目指していくためです。

多くの仲間の経験を分かち合うことのできる新たな出会いの場、また各地区のメンバーのエネルギーを表現する場として、ラウンドアップは大きな役割を果たして来ました。これからももっと大きな役割を果たしていくことになるでしょう。

今年の秋には群馬のラウンドアップにぜひお出掛けください。

9 2 関東甲信越ラウンドアップ

日時 92年10月23日(金)~25日(日)

場所 国立赤城青年の家

群馬県勢多郡富士見村赤城村27



中部・北陸地域

中部・北陸地域としてのラウンドアップは、まだ開催されていない。2カ月に一度、代議員集会在北陸、静岡、愛知、岐阜と会場持ち回りで開かれており、議題には取り上げられたが、まだその機運には至っていないということで開催が見送られた。

ラウンドアップとワークショップとどう違うのかはつきりしないが、中部・北陸地域ではさまざまなワークショップが開かれている。迎春ワークショップは、中央沿線グループの岩屋堂は防寒具必携、三河グループの豊川ではごちそうが山のように出るし、コスモスグループでも、今年から始まったが多分年中行事になるであろうとささやかれている。石川県ではスキーワークショップと白山登山のワークショップが行われる。夏の名古屋5グループ共同の小野浦ラウンドアップは今年で7回目を迎え、浜松グループの中部天竜のワークショップも3回目となり、浦川で行われる山と川に囲まれた夜空に繰り広げられる花火の見事さに一同酔いしれる。秋には、岐阜グループが多治見修道院のログハウスをお借りして、オープンスピーカーズミーティングを毎年行っている。

地域のものではないが、小野浦ラウンドアップについて少し述べてみたい。1986年に第1回のワークショップが小野浦で行われ、その後ラウンドアップと名称を変え、ずっと小野浦で行っている。30余名で始まったが、今では100名を優に超す催しとなった。開催日も原則としてお盆の後の金、土、日と変わっていない。これは次に述べる小野浦ラウンドアップの特徴を生かすために取られている方法である。

『楽しまなくっちゃ、飲まない人生』というのが、小野浦のメインテーマである。当日の朝、自称魚の目利きが2時間もかけて豊漁漁港までネタを仕入れに行く海の幸バーベキューを初めとして、点火に趣向をこらしたキャンプファイアーを囲んで十代に戻って歌う歌の数々、「おっちゃん、おばはんらのあのパワーには負けるわ」と中学生にいわせるディスコ、仲間が集

まって、ない知恵を絞って作った景品の並ぶラッフル、2晩続きのキャンドルミーティング、これらの催しは、誰が言い出したともなく「おもしろそうだ、やろう~、やろう」と次々に増えていったものだ。今年の新企画は『お祭り広場』昨年はビールの空き箱20個の上にコンパネを乗せた舞台が作られ、熱唱するメンバーが引きも切らなかった。

かたや、昔懐かしい風船釣りや、手回しの氷削り機、めくりくじなどが並び、子供を押しつけて大人が熱中していた。今年もまた実行委員のほうで新企画が練られている模様だ。様々な企画を立て2カ月前くらいから楽しむのが、小野浦ラウンドアップだといえるのではないだろうか。

関西地域



一般的にいて、関西のひとたちは食い道楽で、お祭り騒ぎが大好き、がっちり商売上手とはいうものの、AAの中では当てはまらないようです。

関西ラウンドアップは、関西地域の一体性に重きを置いています。関西地域全体でのサービスとして、AAを知らない人達へメッセージを送るイベントです。専門家や家族との理解と協力を深める集まりでもあります。関西にAAが誕生して9年の間は、コンベンションやステップセミナーにとどまっていた。1990年にAA日本15周年記念大会を関西で開催するにあたって、これまで大きな集まりの経験がなかったため、リハーサルを兼ねて、前年の1989年、第1回関西ラウンドアップが、古都京都にて実行されました。そのことによって、翌年の15周年の力となりました。他の地域のメンバーとの出会いと分かち合いによって、参加したメンバーの中には、新グループを作る機会となったり、そこでAAプログラムにそった生き方に引き付けられ、回復のきっかけとなった新しい仲間もいます。また、地域全体としては、この集まりによって、今までより各メンバーの行動の場が増え、フェローシップの輪が広がりました。

1991年から、地域サービス委員会において、年1回のラウンドアップの実行が同意されました。この年に第2回関西ラウンドアップが、百万ドルの夜景を誇る六甲山で開催されました。テーマ「あそぶ」の気楽さの中で行われたワールド・サービス・ミーティングの報告や、パブリックミーティングの成果は大きく、専門家からのAAへの提案もありました。そして今後

の関西地域の問題点が明らかになり、サービスオフィスを生かし、外部との協力を深め、AAを知らない人達へのメッセージがより効果的に方向づけられたようです。

さて、運営は数人のやりたいメンバーが準備委員会を開き、自由参加の形で引き付けられたメンバーが、自立した実行委員会の中で、日取り、場所などを決定します。できるだけ前回と異なった場所に留意し、今回1992年のラウンドアップは、大阪南部の淡輪で開催の運びとなりました。

「ふれあい」—さあ、海へ漕ぎ出そう—のテーマで、一つのグループと一人のスポンサーで、飲まないで生きる楽しみを分かち合い、これからの関西がますます外へ向けて行動していこうと願った集まりです。今回も、他の地域のメンバーの手助けが必要です。9月13, 14, 15日の「たんのわ」でお会いしましょう。



中四国地域

～ラウンドアップの由来～

ラウンドアップとは、放牧した三才牛を狩り集め、烙印を押し囲いで肥育する収穫のお祭りです。

「九州地域だより」に乗っていた記事を読ませてもらい、初めてラウンドアップの由来を知ったのはつい最近のことです。AAグループにつながった新しい仲間たちとミーティング、イベントを通して深い交流を交わし、その中であって病気の自認をし、病識を持ち、生きる勇気と力を継続することを目的とする。

さて、中四国地域でラウンドアップと銘打った集会は何時からでしょう? 『ラウンドアップ』と名付けられた集会は、平成3年6月...広島で初めて開催されました。AA中四国地域・江田島ラウンドアップとした集会は、他地区のグループから早速クレームがきました。「我々は賛同していない。地域の集会ではない。...」と。頭を打ち打ちの船出でした。しかし、様々な失敗を重ねたラウンドアップではありましたが、何とか終わった後には、AAメンバー60名が同一の時間(時)・宿泊(空間)を共有したという満足感が残っていました。

その後、中四国地域内でのラウンドアップは開催されていません。何故? 主催するグループ(地区)が出てこないのです。疲れてるんですよえ...

企画を立てて地区のメンバーに図る、案内状の発送、申し込み(人数の確認)、食事、風呂、レクレーション等々、当日まで宿泊所の担当者との変更続きの打ち合わせでクタクタになってしまう。仲間との交流は大事なわけだけれど、...我々の生命にかかってくることなのだけれど...AAグループがやっと芽を出し始めた地域には、世話役が少々足りない感じ。

瀬戸内海を挟んでユニティを目指している中四国地域なのだけれど、九州、大阪にも近い関係で、中四国地域のAAメンバーは、結構ラウンドアップの醍醐味は知っている。地域としては“うれしいような、かなしいような”...というような状況なのですが、フェローシップに必要な集会はちゃんと企画しているわけで、それは平成元年10月に始まった、『中四国オープン』です。6カ月に一度、定期的で開催され続けている『中四国オープン』も今年10月に第7回を迎えます。

開催地は、倉敷市～高知市～広島市～宇部市～出雲市(平成1年～3年)。今年に入り第6回を再び倉敷市で開催、第7回は広島市の予定。しかし、他地域の集会に比べ、どのようにひいき目に見ても雰囲気は固く、地味で「あ～あ、まだまだだなあ」という感じ。

しかたなく、先ゆく他地域の仲間に司会、進行の応援を...SOS...。ただども、後ゆく我々は他地域に比べ非常に楽ちんな点多々あるわけで、ラウンドアップを催すことの多くの利点(フェローシップ、回復他)に反して、三才牛(三月牛?)から出ている苦情、「AAは金がかかる」そして参加者からの苦情「参加費が高い、宿泊費が高すぎる!」(最近、国民宿舎でも一泊¥8000かかるんですよえ)どうもお金のことが原因になっているようです。そしてラウンドアップ終了後の収益の用途云々...

60年にわたる我々AAメンバーに遺された『三つのレガシー(遺産)』...『回復』・『一体性』・『サービス』...往々にして目的からそれてしまいがちなイベント開催ですので、そのあたりを十分に思慮したうえでこの企画がこれからはますます必要になってくると思います。

中四国地域において、今後のラウンドアップ開催企画は、瀬戸内海、日本海、そして太平洋に面した自然の中で、各地域(グループ)が自発的に計画した、お金のかからない、三月牛の沢山集まるミニラウンドアップが盛んになったらいいなあ...と想像していたら、つい先日地域集会で出ました、出ました!

8月—因島でバーベキュー 尾道G主催
11月—宍道湖で一泊オープン しまねG主催
10月には広島市で『第7回中四国オープン』
まだまだあります、来年2月に『尾道グループ10周年』予定、こうしてみると、結構中四国地域において

も企画続出です。仲間を求めるAAのハイパーパワーを感じます。しかし物価高はいやですねえ...

九州地域



「仲間を集めて、九州の中間地点でキャンプをやる」という変哲もない提案が87年夏の第1回ラウンドアップの誕生を招いた。阿蘇が九州のヘソだということで会場に決定、まだその頃は熊本県にAAが誕生したばかりで仲間もわずかばかり、そこで地域全体で協力運営することになった。どうせやるからにはメンバーだけでなくお世話になっている関係者にも声をかけてみようとなった。家族にも参加してもらおう。どうせなら関東や関西の仲間にも声をかけてみるか、キャンプという名称では格好がつかないので、何かないかと探した。よくは分からないままラウンドアップと名乗ってしまった。

九州地域のラウンドアップの特徴と目指すもの

今年で6回の開催を終えたが、2日間とも200名前後の宿泊者があった。参加構成に特徴がみられるように思う。九州地域のメンバー、九州地域外の参加、家族及び関係者の参加がそれぞれ3分の1ずつである(九州以外では関東と中四国のメンバーの参加が特に目立つ。(九州の観光と夏を楽しむにしている常連が多い)。関係者の参加が多い理由を上げるとすれば、パブリックミーティングの開催と、関係機関(保健所、福祉事務所、病院)への直接訪問による呼びかけがあるのではないだろうか。キャンプの予定がラウンドアップに拡大膨張した背景には、こういうイベントを通して関係機関に知られていないAAグループの存在を認知してもらおうという願いもあった。

ラウンドアップの目指す特別な意識というものの特にないように思う。単純にアルコール依存症本人と周囲の関係者が夏に集まり、いろんな出会いを経験する場 と思っているのでは。あえて目指すものがあるとすれば、一人でも多くに参加してもらいアルコールからの解放の喜び、回復が可能なことをお互いに認めあうことではないだろうか。九州では家族も参加できるように夏休みにラウンドアップを開催している。

開催地の決定と運営について

阿蘇(熊本) 雲仙(長崎) 指宿(鹿児島)
阿蘇(熊本) 伊万里(佐賀) 青島(宮崎)

持ち回りにしたわけではなかった。中間点だから毎年阿蘇で開催したらよいのではないかと思っていた。阿蘇もよいけど雲仙もイイゼとなり、その翌年には指宿の砂蒸し風呂もおもしろいとなった。開催を希望する地区の意見を優先し、運営については地域全体が協力する。昨年は開催地を決定する前に、宮崎地区委員会が会場の下見まで済ませポスターまで作成していた。

(満場一致で次回開催が決定)。今年は春の地域委員会でも来年の開催地の問題が提案された。

そのときの会話です。

「宮崎の次は福岡が大分だな」「邪馬台国の印が出土した福岡の志賀の島の国民宿舎はどうか」「福岡はD会が立派に組織されているから、そういう土地でやるのもいいのでは」「別府の温泉が湯布院の温泉もいいんじゃないか」「大分は次の次の開催を予定しています。そのためにラウンドアップの後に1泊2日のワークショップを企画しています。来年は辞退させて下さい」「他に希望する地区はありませんか」「大牟田グループです。大牟田が九州の中心だと思っています。どの地区からも2~3時間の距離にあり、交通の便もよいところです」「それでは大牟田に200名前後の宿泊施設があるかどうかを当たってください。最終結論はラウンドアップで決定しましょう」

今年のラウンドアップ会場には大牟田市観光協会のポスターが用意されていた。そして宿泊施設の予約も申し込んでいた。(満場一致で次回開催が決定)。

来年のラウンドアップは福岡地区が中心になって実行委員会を構成することになるが、地域委員会、九州セントラルオフィス、他の地区の委員の協力で運営を行うことになる。(ラウンドアップは開催する地区だけで企画、運営するのではなく地域全部が協力して行うことを理想としている)。

ラウンドアップの内容

各地域で開催されるラウンドアップとプログラムの的には大差は無いと思う。ただ最初のころは、ミーティング重視の傾向があったが、近年では遊びの部分が大いに取り入れるようになった。今年の場合で説明すると、セレモニーのミーティングが1時間と、2日目のパブリックミーティングと3日目の朝のさよならミーティング以外は遊びの部分だった。(ラッフルであったり、観光であったり、野球だったりマージャンだったり選択は自由、すべて参加者が気の向くまま、思うままに自分自身が決定行動することになります)。

第1回からパブリックミーティングを開催しているが、これはメンバーにも関係者にも好評である。

これだけに参加される方も多いようである。ただ近年は夜間に開催するので関係者の参加が減少する傾向にある。

問題点があるとすれば～

問題にはなっていないが、開催する地区が負担を感じたり、その反対に地区が独走するような運営にならないように地域委員会が協力して実行委員会を手助けしていく必要があるのではないだろうか。また、セントラルオフィスの業務との区分も考慮に入れる時期にあるのではないだろうか。

来年のラウンドアップ

九州はとにかく 夏が一番

「ムツゴロウ」を見に来ませんか。

平成5年7月24日(金)～25日～26日
福岡県大牟田で開催



絵で見る12の伝統

伝統3

AAのメンバーであるために要求される唯一のことは、酒をやめたいという願望だけである。

わたしたちはあなたを締め出すような規則をすべて取り払った
わたしたちと同じソフリエティの
チャンスをあなたにも
持ってもらいたいです



君が食いつくなんてこれっぽっちも
思っていないさ。どんなにひねくれ
たって暴れたって
気にしないよ



テーマ

「サービスそれはよく情報を伝えられた
グループの良心から始まる」
(決定権・参加権・アピール権)

日程：9月12日午前10時～

9月14日午後3時

会場：東京都江東区深川1-5-3 ホテル「B&G」

参加費：資料代1,500円

宿泊費(食事なし) 6,700円

懇親会(9/12 11:30AM～)4,000円

主なプログラム：

- * 決定権・参加権・アピール権についての各地域からの分かち合い
- * 各地域の問題点について
- * JSOの活動報告と今後の計画
- * AA20周年について / 20周年記念誌について
- * セントラル・オフィスと地域サービス
- * AA出版物の翻訳について
- * 分科会(方針・財務・広報・文書・専門家協力・ネットワーク)
- * その他

多くのメンバーのみなさまの参加をお待ちしています。

JSOオフィス幹事会より

6月と7月の定例幹事会の討議事項を報告します。
 ロゴマークをサービスマークとして、
 AA WORLD SERVICES INC 名義で登録することを
 特許事務所に依頼する。
 JSO法人化についての資料を用意する。
 8月のオフィス幹事会は夏休みとする。9月のオ
 フィス幹事会は9月12日から14日までの第4
 回GSMを控え9月6日に開く事にする。



「回復の道」パートⅡの

原稿を募集しています。

現在ゼネラル・サービス・ミーティング文書委員会のリーダーシップのもと、「回復の道」パートⅡの発行準備が進められていますが、まだ原稿が不足しています。AAでの回復の経験を400字づつ原稿用紙20枚ほどで分かち合ってください。

特に、北海道、東北、中国・四国、九州の仲間のみなさま、そして女性メンバーのみなさまの原稿を心待ちにしています。

GSM文書委員会



左記、3種類のサービスマークを日本AAアルコホーリクス・アノニマスは、商標法改正に備え、発行する文書に積極的に使っています。各グループでも、案内状、議事録等にAAの文書であることを明確にするため、積極的に使用くださることをお願いいたします。